

平成23年度「基礎・基本」定着状況調査結果の分析【国語】

今年度は、広島市の平均通過率を2.1ポイント上回っている。（平成20年度+0.6以来）領域別に見ると「聞くこと」が+8.2ポイント、「書くこと」が+3.5ポイント、「読むこと」が-1.0ポイント、「言語事項」が+2.4ポイントである。

学習に関する意識調査からは、少人数で学習する方がよく分かると答えた生徒が県平均よりも20.2ポイントも高く、少人数での学習が効果的であることがわかる。また、授業の中で協同学習を多く取り入れ、グループでの話し合いや教え合い、意見交流などにより、「考える」授業を展開してきた成果であるといえる。今後の取組としては、文章を理解しながら繰り返し読み、「考える」・「発表する」という授業形態を定着させるとともに、語彙を豊かにし、自分の考えをまとめて書く機会の多い授業を作っていきたい。また、国語力を高めていくために、週末課題や学習ノート等を用いて家庭学習の定着を図り、日常の読書活動にも力を入れていきたい。

○「聞くこと」に関して

「聞き取りテスト」において、1年時より効果的なメモの取り方を指導し、「聞き取りメモ」も評価してきた成果である。今後はさらに、メモを取りながら話を聞くという活動を増やし、聞いたことを正確に伝える力を身に付けるように意識していきたい。また、授業だけではなく、日常生活においても「聞くこと」の意識化を図る工夫を進めていきたい。

○「書くこと」に関して

文章を書くことへの苦手意識や抵抗感をなくするために、作品の感想や人物の気持ち、筆者の考え、授業の感想などをノートの自主学習欄にメモさせたり、ワークシートに書かせたりする活動を多く取り入れてきた。また、「書くこと」において、文例を示し、書き方のパターンや文章構成の指導をすることが効果的であった。これらの取組によって、書くことに対する抵抗感はなくなったが、「適切な理由」を述べることが十分に身に付いていない。説得力のある文章を書くために、根拠を明らかにして書くことを重点的に指導していきたい。定期テストにおいても、適切な構成で文章を書かせたり、根拠をもって考えをまとめさせたりする問題を毎回出題していきたい。

○「読むこと」に関して

今回領域別の中で唯一、市平均より下回っていた。特に市平均と差があったのは、「登場人物の心情の把握」で、-8.4ポイント下回っている。文章からそのまま抜き出す問題はできるが、文章を読み取って、適切な語句を用いて言い換える問題は苦手である。文字数や言い換えなどの条件に合わせた表現ができるように、「読むこと」と「書くこと」を連動させた活動を増やしていきたい。また、言語活動の中で5W1Hを意識させたり、場面の移り変わりや人物の心情を考えながら読ませたり、また、中心となる言葉や文に線を引きながら読ませたりするなど、工夫をしていきたい。

○「言語事項」に関して

漢字の読み書きは、1年生の頃から定期的に行っている漢字テストの成果が表れている。また、テスト週間中には週末課題を用いて語句や文法の総復習を行い、学習内容の定着を図ったことも効果的であった。「行書の基礎」の定着が十分でないことに対しては、書写の授業で再度行書の特徴を押さえ、形の変化に気をつけて反復練習をさせ、定着を図りたい。なるべく多くの語句を授業や週末課題で取り入れて言葉への関心を高めたり、辞書を活用したりするなどの工夫をしていきたい。